



# いずみ野

平成31年4月26日  
横浜市立いずみ野小学校

## 【教育論シリーズその5】

### 人生のベクトル

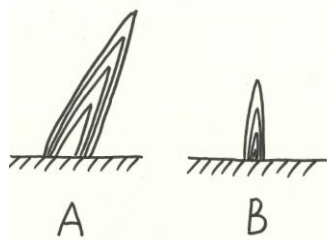
校長 松藤 朋治

入学式の頃には満開だった桜も、今では葉桜となりました。  
本紙表題をご覧になって「あれっ。」と思われた方もいらっしゃるでしょうが、4月の日付に関するものは「平成」を、5月に関するものからは「令和」を用いる取り決めになっているので、2つの時代表記が同居した珍しい表題になりました。  
さて、つい先日、6年生向けに「人生のベクトル」と題して話をしました。概略は次の通りです。



▲ 校舎北側 飼育小屋横の葉桜。

向きと大きさの両方を兼ね備えたものを、「ベクトル」と言う。矢印の向きが違えばベクトルは違うことになるし、大きさが違う場合もベクトルが違うことになる。今、日本人の平均寿命は80歳以上だ。その人生をどれくらいの力でどういう向きに進んでいけばよいか、つまりどのように生きていこうとするか、それが「人生のベクトル」だ。



植物に例えて考えてみよう。芽が出た2つの植物AとB(図解)。Aは、すぐに発芽し太い茎だが、斜めに伸びている。Bは、やっと発芽し、細い茎が真っ直ぐ上へ向かっている。小さい子が種子蒔きをするとき、よく「早く大きくなあれ。」と言う。しかし、Aのように斜めに向かっているとしたら、その後はどうなるだろう。斜め上に向かっているということに気付かずにぐんぐん大きくなっていく。さらに、周囲からは「すごいね、大きいね。」と大きさについてだけ言われ、そのまま育ってしまったとしたら、その先どうなるだろう。…子供の反応:「折れる。」「倒れる。」…そうならないようにするためには、まだ小さな幼木のうちに、Bのように向かう方向をきちんと正しい方向に向けてあげることが大切だ。やがて幹も太くなって、ぐんぐんと伸び大木になる。倒れるどころか、木陰をつくって人に安らぎを与えることができるようになる。

人の人生も同じようなもので、人の生き方の基礎も幼少期に作られることが多い。ならば、**幼少期≒小学校までに、しっかりと「人生のベクトル」の基礎を作ろう。**昨年度話したイチロー選手や大谷翔平選手は、小学生の時、すでに野球の道を真っ直ぐに歩もうと心に決めていたらしい。2人とも、将来の長期的な目標を設定して、それを実現するためにはどうしたらよいか、身近な目標に向かっていった。

また、自分の人生のベクトルが正しい方向を向いているかは、自分で確認することが難しい。そういったときに「今、違う方向を向いているよ。」と言ってくれるのは、身近な友達、家族、先生や地域の人など。そういう人に言ってもらった言葉は、自分のために大切にしよう。人から受ける助言を参考に、周囲からの外力を自分の内側から伸ばす力に変えるようにしよう。大事なものは、自分自身の心に火を付け、まっすぐ大きく伸ばしていこうとすることだ。ぜひ、小学生のうちに、将来大木となれるような自分の人生の基礎をつくろう。

「鉄は熱いうちに打て」ということわざがあります。鍛冶屋が丈夫な刀を作るとき、熱して真っ赤になった鋼をたたいて名刀に仕上げていきますが、冷めてからだと丈夫な刀を作ることはできません。人間も同じで、若くて柔軟なうちに人生の正しい道筋を付けましょう、という教えです。

明日から、時代をまたぐ“証人”として過ごす10連休となります。そして、いよいよ「平成」から「令和」へと時代が変わる瞬間がやってきます。しかし、時代が変わっても、幼少期に人生のベクトルを正しい方向に向けてあげるといったことは不易の教えです。ぜひ、身近な立場の人が、令和の時代に生きる子供たちに“素敵な外力”を与えていただければ幸いです。